

# 6. 高感度層に普及するSNS投稿の特徴

松山芳生, 朝日弓未 (東海大学)

## 4.1 提案概要 ディープラーニングモデルの構築

- 本研究で作成するディープラーニングモデルは、教師あり学習で予測対象が2値カテゴリの分類モデルである。
- 扱うデータから、ディープラーニングモデルの構築に多層パーセプトロンというネットワーク構造を用いる。

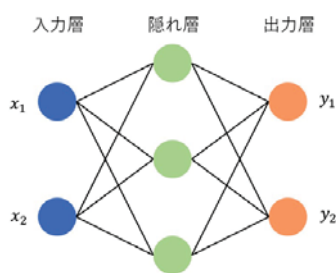


図7. 多層パーセプトロン (隠れ層: 1)の構造



図8. 今回のモデル構造

- 本研究のモデルは、隠れ層が2つの構造となっている。

## 4.2 提案概要 決定木分析

- 本研究で用いた説明変数は4種類である。

表4. 説明変数ごとに取れる値

- 表4より、本研究では説明変数が取れる値が、 $4 \times 7 \times 2 \times 54 = 3,024$ の3,024通りしかない。

画像数	感情	性別	年齢
0	なし	男性	16
1	いいね	女性	17
2	感動		・
3	喜び		・
	困った		・
	残念		68
	怒り		69

- ➡ 全パターンを組み合わせたデータを作成し、そのデータについて学習させたディープラーニングモデルを適用し、「非共感レポ」・「共感レポ」のどちらを書くのかを予測し、決定木分析により予測された2値の特徴を分析する。